

湖西市学校再編検討結果報告書
【白須賀地区】
（概要版）

令和8年3月

湖西市

目次

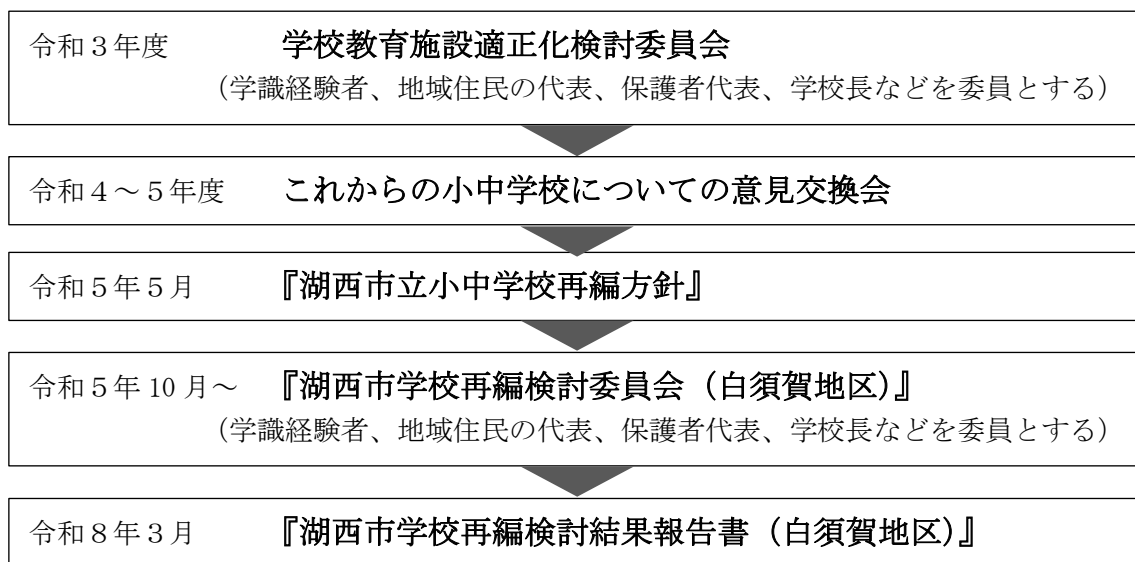
はじめに	1
第1章 これまでの検討経緯.....	2
1. 湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和4年3月）	2
(1) 単学級における児童生徒数について.....	2
(2) 学級数について.....	2
2. 湖西市立小中学校再編方針（令和5年5月）	3
(1) 児童生徒数の推移.....	3
(2) 令和4～5年度実施の子育て世代のアンケート結果について.....	3
第2章 学校再編検討の流れ.....	4
(1) 検討する項目.....	4
(2) 検討の方法.....	4
第3章 再編案の検討.....	7
1. A案の概要	7
2. B案の概要	8
第4章 住民意向の確認.....	9
1. 白須賀地区全世帯アンケート調査.....	9
(1) 調査実施概要.....	9
(2) アンケート調査結果.....	10
2. 白須賀地区内小中学生アンケート調査.....	13
(1) 調査実施概要.....	13
(2) アンケート調査結果.....	13
第5章 学校再編検討委員会の意見.....	14
1. 今後の小中学校の在り方について.....	14
2. 市及び教育委員会に対する要望事項等.....	15
3. まとめに代えて（委員長談話）	16
おわりに	17

はじめに

全国的に少子化が進んでおり、湖西市（以下「本市」という。）でも直近40年ほどで児童生徒数が半減しています。現在の小中学校は、保護者や地域の方々の協力を得ながら、学校運営を工夫することで、子どもたちの健やかな成長を促すことができる環境が維持されています。しかし、少子化の波により、子どもたちのコミュニケーション能力の育成、多様な考え方から学びを深める機会の保障など、これまでの教育環境の維持が懸念されています。

湖西市教育委員会では、急激な少子化の進行を考慮し、令和3年6月に学校教育施設適正化検討委員会（以下「適正化検討委員会」という。）を設置しました。適正化検討委員会では、子どもたちにとってよりよい教育環境を充実させることを基本的な考え方として、その結果を令和4年3月に報告書にまとめました。その後、湖西市教育委員会では、この報告書を基に、令和4年5月から、保護者や地域の方々を対象に「これからの小中学校について意見交換会」を実施し、意見交換を行いました。そこでの意見や子育て世代を対象にしたアンケート結果等を踏まえ、本市として、今後のよりよい教育環境の実現に向けた「湖西市立小中学校再編方針」を令和5年5月にまとめました。

以上の状況を踏まえ、白須賀地区において学校再編検討委員会（以下「再編検討委員会」という。）を立ち上げ、学校再編に対する検討を実施し、結果報告書としてとりまとめることを目的とします。



第1章 これまでの検討経緯

1. 湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和4年3月）

「湖西市立学校教育施設適正化検討委員会報告書（令和4年3月）（以下「適正化検討委員会報告書」という。）」では、子どもたちにとってよりよい教育環境を充実させることを基本的な考え方として、小規模の小中学校（東小学校、知波田小学校、白須賀小学校、湖西中学校、白須賀中学校）の望ましい児童生徒数、学級数について以下のように取りまとめています。

（1）単学級における児童生徒数について

①小規模小学校（東小学校、知波田小学校、白須賀小学校）

表：本市における小規模小学校の望ましい教育環境

教育環境	理由【抜粋】
【1学年の児童数】 20人以上	<ul style="list-style-type: none">・集団活動によって、他者との相違点に気付きながら、社会に出るために必要な資質・能力を身につけていくことができる。・人数が少なすぎると、人間関係の修復が難しくなってしまった場合に、逃げ道がなくなってしまう。

②小規模中学校（湖西中学校、白須賀中学校）

表：本市における小規模中学校の望ましい教育環境

教育環境	理由【抜粋】
【1学年の生徒数】 30人以上	<ul style="list-style-type: none">・切磋琢磨しながら学校生活を送り、心身を大きく成長させることができる。・人間関係に問題が生じた場合でも、新たな人間関係を築きやすい。

（2）学級数について

①小規模校（東小学校、知波田小学校、白須賀小学校、湖西中学校、白須賀中学校）

表：本市における小中学校の望ましい教育環境

教育環境	理由【抜粋】
【1学年の学級数】 2学級以上、 できれば3学級	<ul style="list-style-type: none">・人間関係に大きな問題が生じた場合には、子どもにも、保護者にも居場所がなくなってしまう可能性が高い。・学級ごとに競い合う学校行事を通して、協力することの大切さを学ぶことができる。

2. 湖西市立小中学校再編方針（令和5年5月）

再編方針においては、将来的に1学級15人以下となった場合のメリット、デメリットを比較した結果、デメリットの方が大きくなると思われました。

したがって、小規模校の小学校、中学校では、何らかの手法を用いて適正配置の検討が必要であることから、東小学校、知波田小学校、白須賀小学校、湖西中学校、白須賀中学校において、どのような配置が望ましいのかについて基本的な方針をまとめることとしました。

（1）児童生徒数の推移

①小学校児童数の推移（見込）

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13
東小学校	132	125	108	108	102	100	92
知波田小学校	135	117	113	97	93	75	64
白須賀小学校	141	126	118	104	99	84	85
鷺津小学校	755	720	698	673	611	621	589
岡崎小学校	718	712	694	657	640	625	588
新居小学校	618	565	513	510	470	428	420

②中学校生徒数の推移（見込）

	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
湖西中学校	141	128	138	144	136	134	123	106	87	82	89	88	74
白須賀中学校	71	82	73	83	66	70	58	60	48	46	39	36	39
鷺津中学校	449	457	424	406	410	371	349	310	327	324	301	294	265
岡崎中学校	386	375	382	380	383	367	338	329	327	319	311	298	269
新居中学校	399	379	385	347	316	292	271	249	221	239	221	207	181

※再編方針で提示した生徒数から R7. 5. 1 現在の児童生徒数と未就学児数による推計値に更新しています。

（2）令和4～5年度実施の子育て世代のアンケート結果について

令和5年3月に小学校入学前、小学生のお子さんをお持ちの子育て世代の方を対象としたアンケートを実施しました。白須賀地区の再編案として4つの案を提示し、今後の方向性として望ましいと考える案を選択してもらいました。提示した再編案は、第1案「小中一体型の学校になる案」、第2案「小学校は現状のままとし、中学校からは、近隣の中学校へ通う案」、第3案「小学校から大規模校へ通う案」、第4案「その他」です。

調査では125件（対象：210世帯）の回答（回答率：59.2%）があり、「これからの白須賀小学校、白須賀中学校は、どのようにしていくことが望ましいのか」について、第1案が34%、第2案が29%、第3案が30%となりました。「現状のまま」と回答した割合は、5%であり、子育て世代の方々は、何らかの手法を用いて、学校の在り方を変えていくことを望んでいることが分かりました。特に、「小学校は現状のまま、中学校から、近隣の中学校に通う」、「小学校から大規模校に通う」と回答した割合は、59%であり、6割近い方が、少なくとも中学校からは規模の大きな中学校を希望していることが分かりました。

第2章 学校再編検討の流れ

(1) 検討する項目

学校再編の検討の進め方を整理します。「再編方針」で示されている通り、学校再編の検討においては、白須賀地区に在住の方を委員に含めた「再編検討委員会」を設置し、学校再編の方向性を検討します。また、再編検討委員会での議論と並行し、保護者や地域住民との意見交換会を実施し、学校再編の検討を行います。

【検討する項目および流れ】



(2) 検討の方法

①「再編方針」において当初設定していた検討の進め方

今回検討する再編案は、「再編方針」にて白須賀地区のこれからの子どもたちの教育環境として最も適していると記されている「小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案」について、具体案を示しながら議論し、検討することを当初予定していました。

検討を行う再編案

小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案

②保護者の意見交換会における意見

保護者との意見交換会において以下に示す意見がありました。

保護者との意見交換会での意見【一部抜粋】

1) 現状の学校再編方針について

- ・学校再編方針が十分な説明のないまま決まっている。
- ・アンケートの項目に「現状維持」がなかった。

2) 中学校の存続を望む声など

- ・中学校の廃校を検討するのではなく、小規模校の良さを活かした教育環境を充実させるべき。
- ・小規模校のデメリットを解消するような取組みをするべき。
- ・白須賀中学校がなくなると地域の方々との交流がなくなってしまうので残してほしい。

3) 保護者の声

- ・当事者である保護者の意見を尊重してほしい。地域の意見交換会などに参加している保護者は非常に少ない。
- ・9年間少人数での教育となることに不安がある。
- ・保護者同士でも周りの人がどのように考えているのか分からない。

③再編検討委員会における意見

当初設定した目的で開催した第1回白須賀地区学校再編検討委員会、第2回白須賀地区学校再編検討委員会にて、以下に示す意見がありました。

再編検討委員会での意見【一部抜粋】

1) 第1回白須賀地区学校再編検討委員会での意見

- ・適正化検討委員会の報告書と方針は、廃校ありきで資料等が示されていると感じてしまう。

2) 第2回白須賀地区学校再編検討委員会での意見

- ・誰が決めたのかわからない方針を白紙に戻し、再検討する必要がある。
- ・まずは方針を白紙とし、湖西市全体の将来を見据えてもう1回議論して欲しい。
- ・幼稚園がなくなり中学校もなくなると悲しい。
- ・せっかくの小規模校なら残さないと、という気持ちも強い。
- ・圧倒的に地域住民にも反対の空気があり、もう少し残す努力を検討してほしい。

④修正した検討の目的と検討の進め方

当初、「再編方針」にて白須賀地区のこれからの子どもたちの教育環境として最も適していると記されている「小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案」について、どの中学校へ統合するのか、そして統合した際の通学方法、再編スケジュールをどうするのかなど、具体案を示しながら議論し、学校再編の詳細について検討し、基本計画として取りまとめる予定でした。

しかし、前述の通り、保護者との意見交換会で「白須賀中学校を残してほしい」という声が多く出されていること、白須賀地区学校再編検討委員会でも「再編方針について再検討してほしい」といった意見が多く出されていることから、保護者と地域の意見を丁寧に聞きながら、白須賀小学校と白須賀中学校のあり方について、学校の存続を含めた形で、再度検討することとしました。

検討の進め方は、当初設定した検討の進め方と同様に、白須賀地区に在住の方を委員に含めた「再編検討委員会」において、白須賀地区のこれからの子どもたちの教育環境としてどのような形が最も適しているのかについて検討を行いました。また、再編検討委員会での議論と並行し、保護者や地域住民との意見交換会を実施し、いただいた意見を学校再編の検討の参考とします。再検討する再編案は次の2案とします。

表：検討を行う再編案

A案	白須賀小学校と白須賀中学校ともに存続する案
B案	白須賀小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案

第3章 再編案の検討

前章で提示したA案（白須賀小学校と白須賀中学校ともに存続する案）とB案（白須賀小学校は現状のままとし、中学校からは近隣の中学校へ通う案）について比較し、それぞれの案の概要、考えられる教育効果、通学方法、懸念事項について整理しました。

1. A案の概要

概要	<p>「中学校を存続」とした場合には、少人数だからこそ可能な教育が推進できます。そして、地域との密接な連携により地域全体が学びの場となり、実社会との接点を持ちながら学ぶことができる環境下での「体験学習」など特色のある学校づくりを進めていきます。</p> <p>また、小学校も存続することから、隣接する小学校の利点を活かし、連携した取り組みで教育効果を高めていきたいと考えます。</p>
教育効果など	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人に役割を任せられる場面が多く、責任を持って取り組むことの大切さや、自己肯定感、自己有用感を育むことができる。 ・小学校から中学校まで同じクラスとなるため、一緒に過ごす時間が長く、互いをよく理解し合い、思いやりながら、穏やかな雰囲気の中で学校生活を送ることができる。 ・小学校、中学校が隣接しているため、学校単位を超えた異学年合同の活動を行いやすく、交流を深めることができる。 ・小学校、中学校の教育プログラムを通して、歴史ある白須賀地区を探索し、地域の歴史・文化・自然・産業などの良さを活かした学びを積み重ね、学んだことを発信していく活動も可能となる。 <p>→小学校、中学校ともに全学年で1学級であり、今後も人数が減少していくことが見込まれます。</p>
通学方法	<p>→現在の小学校と中学校を存続するため、通学については現状と変わりません。</p>
懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から中学校まで同じクラスとなるため、人間関係が固定化され、集団内での立場関係をその集団のみで改善することが難しい可能性がある。 ・生徒数が多い学校と比較すると多様な考えに触れる機会が減り、人間関係が固定化され、集団内での立場関係をその集団のみで改善することが難しい可能性がある。
中学校を存続する場合の取り組み(案)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携、交流をさらに深め、子どもたちに白須賀地区の歴史・文化・自然産業等の地域資源を活用した体験学習から、子どもたちが社会の一員として自立できる環境づくりを行う。 ・小中合同で学習発表会を行うなど、異学年の交流をさらに充実させ、多くの人と関わる機会の増加を図る。また、小規模特認校制度*の導入を検討する。

※「小規模特認校制度」…小規模校の良さを活かした教育環境で学びたいという希望者に対し、通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める制度です。ただし、学級数（1学級の人数は35人以下）が増加しない範囲内での募集となります。

2. B案の概要

概要	<p>近隣の中学校と統合することで、将来的にもクラス替えが可能となる規模を維持することができます。生徒たちは同学年の多くの仲間と関わる事が可能となり、学びと活動の幅が広がる事が考えられます。</p> <p>小学校は存続することから、小学校における地域住民とのかかわりはこれまでと同様に続いていくものと考えます。</p>
教育効果など	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校と比較すると多様な考えに触れる機会が多くなり、自他の違いに気付いたり、自分らしさを磨いたりすることで、自己を成長させていくことができる。 ・学年ごとにクラス替えがあり、人間関係に問題が生じた場合にも、新たな人間関係を築きやすい。 ・2学級以上あることで、各学級が互いに磨き合い、学級ごとの個性や特色を活かしながら学び合うことができる。これにより、競争と協力を通じて、達成感や自己成長を感じることができる。 ・白須賀地区だけでなく、各地区の歴史・文化・自然・産業などにも触れることができ、統合先の地域の良さを学ぶことができる。 <p><u>→小学校については将来的に全学年でクラス替えができない規模と考えられますが、中学校を近隣の中学校へ統合するため、中学校においては将来的にもクラス替えが可能な規模となると考えられます。</u></p>
通学方法	<p><u>→中学校を近隣の中学校へ統合するため、多くの中学生の通学距離が長くなる事が想定されます。</u></p>
懸念事項	<ul style="list-style-type: none"> ・通学距離が長くなる生徒が多くなり、生徒や保護者の通学にかかる負担（通学時間の増加、送迎の調整 等）が増加する可能性がある。 ・人数の少ないところから人数が多いところに通うことになるため、中学校入学時の不安や負担が大きくなる可能性がある。
中学校を存続する場合の取組み(案)	<ul style="list-style-type: none"> ・通学距離に応じてスクールバス等を導入するなど、通学にかかる負担を軽減させるとともに、安全な通学路の整備を行う。 ・統合前における中学校同士の交流事業のほか、小学校段階からの学校間交流事業を実施することで、中学校から近隣の中学校へ統合することとなる生徒の不安解消を図る。

第4章 住民意向の確認

住民意向の確認では、白須賀地区全世帯アンケート調査及び白須賀地区内小中学生アンケート調査を実施しました。

1. 白須賀地区全世帯アンケート調査

(1) 調査実施概要

学校再編に関する意向調査として、白須賀地区における保護者及び地域に住む方々を対象としたアンケート調査を実施しました。調査概要は以下の通りです。

調査対象	: 令和7年度10月時点で白須賀地区にお住まいの世帯 (対象: 1,121世帯)
期間	: 令和7年10月21日(火)~11月21日(金)
調査方法	: アンケート調査依頼文、調査票を郵送、学校での配布、自治会からの配布のうちいずれかの方法で行い、回答はWEBでの回答、もしくは調査票を紙で提出(紙で提出する場合には、南部構造改善センターに設置した回収ボックスに投函もしくは区長へ提出の2通りの方法にて回収)で行った。
主な調査項目	: 望ましいと考える再編案(次の再編案から一つを選択)

A案	白須賀小学校と白須賀中学校ともに存続
B案	白須賀小学校は存続、白須賀中学校は近隣の中学校に統合 【統合を希望する中学校】 ・鷺津中学校 ・岡崎中学校 ・新居中学校
その他	A案、B案以外の案(自由記入)

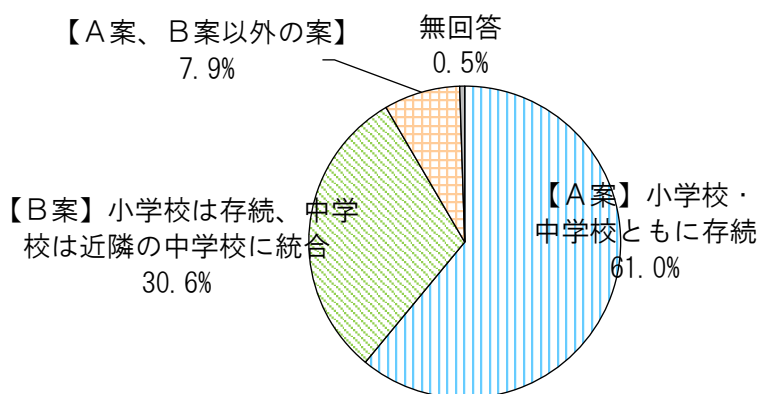
(2) アンケート調査結果

① 回答率

今回のアンケート調査の回答率は、51.92% (582/1,121 世帯) です。

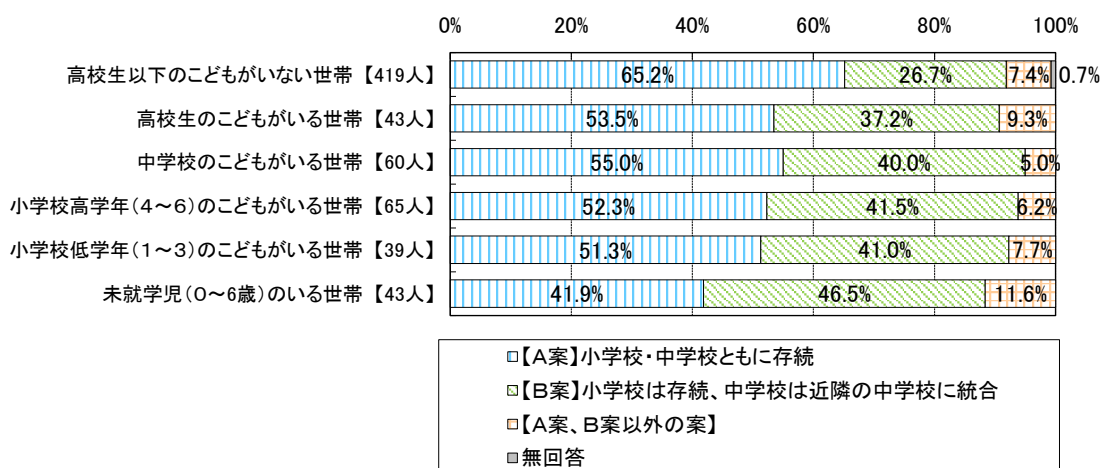
② 望ましいと考える再編案

白須賀地区の方々が望ましいと考える再編案は以下の通りです。最も多い回答はA案が61.0% (355人)、次いでB案が30.6% (178人)、A案、B案以外の案は7.9% (46人) でした。



白須賀地区の方々が望ましいと考える再編案

また、子どもの年齢による世帯別の望ましいと考える再編案は次のとおりで、小学校以上の子どもがいる世帯ではA案が望ましいという回答が多い一方で、未就学児(0~6歳)のいる世帯ではB案が46.5%と最も多く、次いでA案が41.9%、A案、B案以外の案は11.6%でした。



白須賀地区の中学生以下の子どもがいる世帯が望ましいと考える再編案

③再編案を選択した理由（複数回答可）

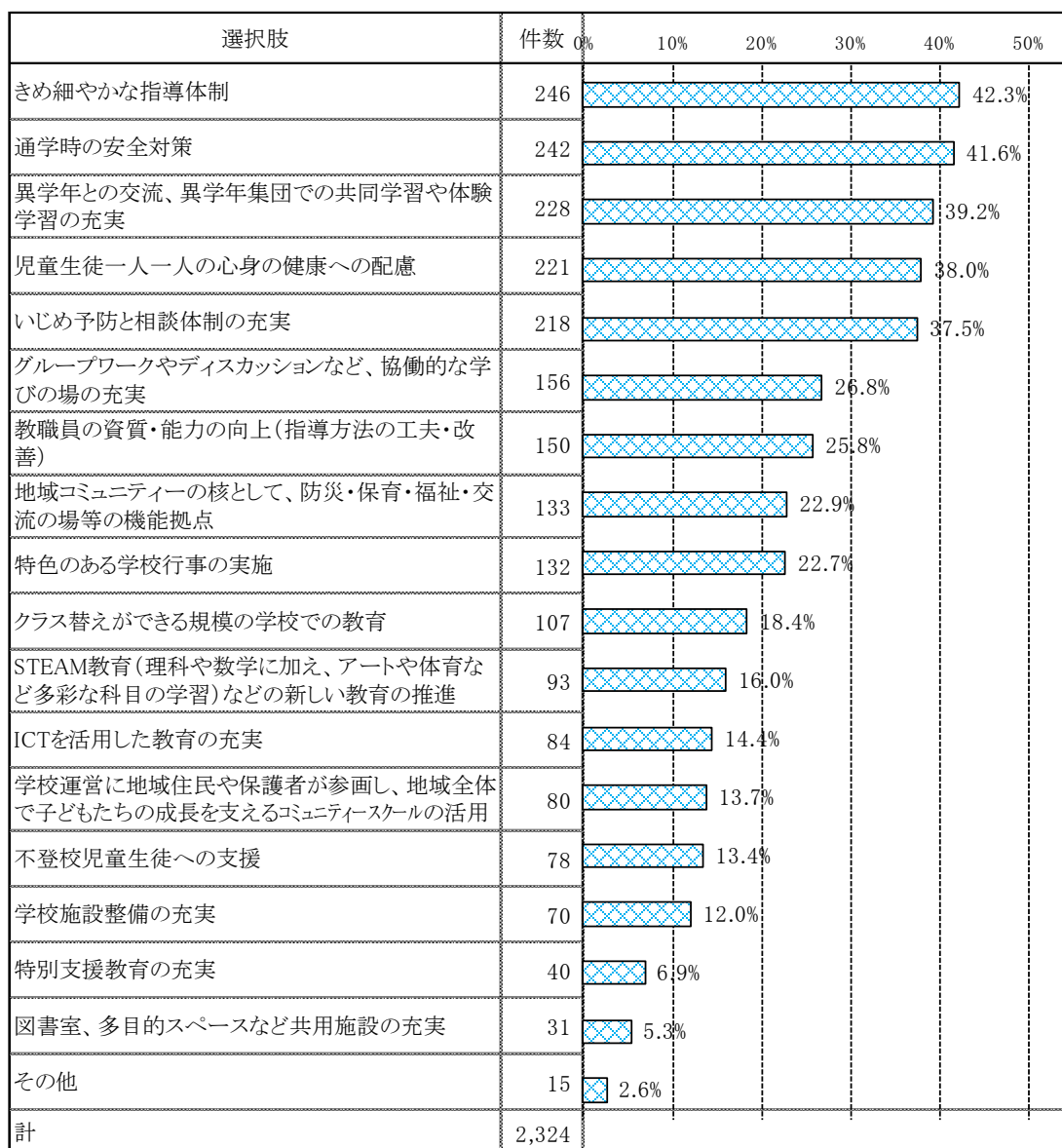
望ましいと考える再編案を選択した理由のうち主なものは以下の通りです。

A案を選んだ理由として最も多かったのは「通学（距離、安全面）」で81.1%、次いで「地域とのつながりが維持できる」で67.4%でした。

B案を選んだ理由として最も多かったのは「同学年間で多くの人と関わることができる」で86.4%、次いで「活動の幅が広がる」で71.8%でした。

④今後の教育環境に求めるもの（複数回答可）

今後の教育環境に求めるものに対する意見は以下の通りでした。最も多かったのは「きめ細やかな指導体制」で42.3%、次いで「通学時の安全対策」で41.6%でした。



集計母数582名

⑤白須賀地区のこれからの小中学校に関するご意見（自由記入）

アンケート調査に記載された白須賀地区のこれからの小中学校に関する意見のうち、主なものは以下の通りです。

表：白須賀地区のこれからの小中学校に関する主なご意見

主な意見（複数の意見を集約）
<ul style="list-style-type: none">・廃校にするより、白須賀をもっと発展させて住みたい町にしていく必要があると思う。・小中一貫校として小規模校のメリットを活かして存続してほしい。・小規模校の良さを活かしていった方が良いのでは。
その他意見（一部抜粋）
<ul style="list-style-type: none">・中学校が統合となった場合、悪天候等により送迎が必要となった場合、できない家庭もあるのではないかと。・若い人たち（これから小中学校に入学する子どもをもつ方たち）の意見を大切にしてほしい。・特色ある学校づくりを進めてほしい。

2. 白須賀地区内小中学生アンケート調査

(1) 調査実施概要

学校再編に関する意向調査として、白須賀地区内の小学生を対象としたアンケート調査を実施しました。アンケート調査では、約7割の子どもがA案を支持する意見が多いという結果となりました。調査概要は以下の通りです。

調査対象 : 令和7年度12月時点で白須賀小学校、白須賀中学校に通う児童生徒
期間 : 令和7年12月1日(月)～12月5日(金)
調査方法 : タブレット端末により実施
主な調査項目 : 望ましいと考える再編案(次の再編案から一つを選択)

A案	小学校・中学校ともに存続
B案	白須賀小学校は存続、白須賀中学校は近隣の中学校に統合
その他	ほかの考えがある。まだよくわからない。

(2) アンケート調査結果

①回答数

小学生低学年(1年～3年) : 57人、小学生高学年(4年～6年) : 82人
中学生 : 69人

②望ましいと考える再編案

白須賀地区の小学生低学年が望ましいと考える再編案は以下の通りです。最も多い回答はA案が72%(41人)、次いでB案が25%(14人)、その他は4%(2人)でした。

白須賀地区の小学生高学年が望ましいと考える再編案は以下の通りです。最も多い回答はA案が77%(63人)、次いでB案が17%(14人)、その他は6%(5人)でした。

白須賀地区の中学生が望ましいと考える再編案は以下の通りです。最も多い回答はA案が74%(51人)、次いでB案が23%(16人)、その他は3%(2人)でした。

③再編案を選択した理由

小学校4年生以上の子どもには再編案を選択した理由についても確認しました。

第5章 学校再編検討委員会の意見

本章は、これまでに実施した地域住民アンケートの結果、小中学生のアンケートの結果及び学校再編検討委員会における協議内容を踏まえ、委員から挙げられた主な意見を整理したものです。学校の「存続」・「統合」の結論を示すものではなく、今後、市が最終的な判断を行うにあたり、検討すべき論点及び留意事項を整理することを目的としています。

1. 今後の小中学校の在り方について

- ・これまで実施したアンケート結果が現時点における地域住民や児童生徒の意見を反映したものであると考え、小中学校ともに「存続」とするのが妥当である。
- ・地域住民アンケートの結果より、未就学児のいる家庭の意見では、「統合」を希望する意見の割合が高くなっていることにも留意すべきである。
- ・小中学生のアンケート結果からクラス替えはあったほうが良いと思う子どもも一定数いるということを見逃してはいけない。
- ・大規模校に組み込まれていく「統合」ではなく、体育大会や文化祭を市内の他校と一緒に実施するなど足りないものを補い合えるような学校の在り方も模索されるべきである。
- ・児童生徒数など学校の規模だけに偏らず、学校再編の検討をしてもらいたい。

2. 市及び教育委員会に対する要望事項等

- ・学校再編の方向性が定まらず、地域住民の間で溝が深まることが懸念される。また、白須賀地区のまちおこしの方向性にも影響を与えるため、今回のアンケート結果や本検討委員会における意見を踏まえ、明確な方向性を出してもらいたい。
- ・このまま方向が定まらない状態で時間が過ぎてゆくのは良くないので早期に結論を出してもらいたい。
- ・「存続」、「統合」にかかわらず、現在、バスで通っている児童の保護者に対する負担軽減策や児童生徒の通学路の安全について留意してほしい。
- ・「存続」「統合」どちらの結論になっても半分近い保護者の不安や心配事は残るため、結論を公表する時には不安や心配事を解消する具体的な方策を明示し丁寧な説明をしてもらいたい。
- ・「存続」と結論付ける場合は、この地域だからこそきめ細やかな指導体制や異学年との交流など、小規模校のメリットを活かすとともに、人間関係の固定化等のデメリット解消の方策を検討し、より良い教育環境を更に発展できる学校運営を望む。
- ・「存続」と結論付ける場合は、教育委員会が考える望ましい教育環境の確保のために決めた「統合」の方針とは異なるので、子どもにとって望ましい教育環境の確保以上に優先する理由の説明が必要である。
- ・「存続」と結論付ける場合は、次に示すような具体的な方策を早急を実施できるように検討し、懸念点を少しでも払拭できるように進めていくことを地域住民や保護者に対し説明してほしい。

具体的な方策案に関する意見

- ・小規模校の良さを活かした教育環境で学びたいという希望者に対し、通学区域に関係なく、市内のどこからでも就学を認める小規模特認校制度の導入を検討すること。
- ・学年を越えた学習カリキュラムや小中一貫教育等、小規模校の特性を活かした教育をさらに充実させること。
- ・市内にある他校との合同授業、交流学習、ネット環境を活用した全国の学校同士での遠隔授業を通して、多様な人間関係構築を経験できる機会を確保すること。
- ・白須賀地区の良さを活かした「特色のある教育」（地域住民との交流、地域の自然を活かした体験学習等）をさらに充実させること。
- ・全国の先進的な教育（例えば、英語特化クラスの導入等）の導入検討をすること。
- ・地域と一体となって子どもたちを育む学校づくり（コミュニティ・スクール）の効果的な運用を検討し、家庭、地域との連携をさらに強固にすること。
- ・白須賀地区の活性化に向け、優良田園住宅制度等、引き続き住宅用地の確保に努めること。

3. まとめに代えて（委員長談話）

令和4年3月の「学校教育施設適正化検討委員会報告書」、それを踏まえ令和5年5月に策定された「学校再編方針（小学校は現状維持、中学校は近隣中学校に通学する）」、その後の保護者や地域住民との意見交換会を受けて、令和5年10月に第1回検討委員会が行われた本委員会は、第2回検討委員会の後、長い中断を経て、令和7年7月に再開した（第3回検討委員会）。本委員会再開後は、委員の意見を踏まえて、中学校の統廃合の是非だけでなく、「望ましい教育環境」についても住民の意見を伺うアンケートを作成し、実施した。結果的に、白須賀地区の住民、保護者、そして子どもも含めて多くの方々の協力を得て広く意見を伺うことができた。アンケートの作成・実施は学校や地域について、改めて「みんなで当事者意識をもって考える」きっかけになったのではないかと思われる。第5回検討委員会では、市長にも参加していただき、白須賀という特定地域だけの問題に終わることなく、湖西市全体の教育についても貴重な意見のやり取りがあった。

今日、公立小学校・中学校の統廃合問題については、文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置に関する手引—少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて—」（平成27年1月27日）がある。そこでは、「学校規模の適正化の検討は、様々な要素が絡む困難な課題ですが、飽くまでも児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に捉え、学校教育の目的や目標をより良く実現するために行うべきもの」とある。ただし、「同時に、小中学校は児童生徒の教育のための施設であるだけではなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有することが多く、防災、保育、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持っています」、「学校教育は地域の未来の担い手である子どもたちを育む営みでもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も持っています」と書かれている。

これまでも学校は地域との関わりを当たり前のこととして重視してきたが、少子高齢化が急速に進む中で学校の小規模化が進み、学校の規模がいわゆる「適正規模」に満たない時はまず「児童生徒の教育条件の改善」が求められ、結果的に統廃合に至る場合が多かった。検討の過程において、「家庭を含めた地域の意見をどこまでくみ取れているのか」、また、「まちづくりの在り方と連動した検討がどこまで行われてきたのか」が問われてきた。前述の手引では、学校統合に関して留意すべき点の第一に「学校統合の適否に関する合意形成」をあげているが、合意形成のための「参加」の在り方も含めて学校と地域との間の合意形成は容易ではない。

その点、本委員会がわずか6回の開催であったにもかかわらず、一回一回の検討会の協議や途中の長い中断を経て、住民の多くの協力の下に行われたアンケートの意義は大きい。本報告書に示されたこれまでの検討の経緯やアンケート結果、それに関わる委員の意見は、結論や提言としては明確ではないかもしれないが、学校と家庭、地域の合意形成のプロセスであり、本委員会としての一つの到達点を示すものといえる。本委員会の報告書をまとめるにあたって、委員から「存続」「統合」について明確に示すべきという意見もあったが、「学校再編検討委員会の意見」（第5章）としたのは、本委員会では総合的には「存続」という民

意が示されたものの、学校教育のさらなる充実や「まちづくり」への要望も含めて多面的に示された本委員会の意見の形（かたち）をできる限りそのまま示したかったからである。

平成 27 年 3 月に告示された現行の「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」では、「主体的・対話的で深い学び」の観点からの授業改善を中心的な課題としており、特に「深い学び」に関わって「社会に開かれた教育課程」の重要性が指摘されている。湖西市では、県立高等学校である湖西高校が市教育委員会との協力の下、「探究」の授業として「湖西学」を積極的に進めている。教職員の働き方改革、それに関わる部活動の地域移行（地域展開）、コミュニティ・スクールなどの今日の教育改革においては地域との関わりの良さがこれからの教育の良さに直結していくことになるだろう。ただ、少子高齢化社会において学校の小規模化が進み、地域社会も変貌している状況下では、学校と地域との関わりの良さを保つことは、学校、地域双方でそれなりの努力が求められることも自覚されなければならない。

白須賀地区では、小中一貫教育についての意見もあったが、一貫教育を進めるにあたって老朽化した学校施設の改修には多額の費用がかかる。逼迫した地方財政のもと、学校だけでなく個々の公共施設の固有の機能を明確にし、どこまで機能連携が可能かを十分検討したうえで公共施設を整備し運営していくという、生涯学習的視点をもった公共施設マネジメントも求められるのかもしれない。

本報告書に示された学校と地域に関わる意見が白須賀地区の学校の在り方のみならず、湖西市全体の公教育の在り方を考える契機になることを願ってまとめに代えたい。

おわりに

本報告書は、白須賀地区の学校再編について、保護者や地域の方々との意見交換、地域住民や小中学生を対象としたアンケート結果、検討委員会での議論等を整理したものです。

今後、白須賀地区の学校再編については、本報告書の内容や保護者及び地域の方々から寄せられた多様な意見、これまでの検討経過等を十分に踏まえながら、「子どもたちにとってよりよい教育環境の充実」という観点から、市及び教育委員会において速やかに検討を進め、総合的に判断します。

また、いずれの判断を行う場合においても、その理由や背景、今後の具体的な対応方針について、保護者及び地域の方々に対して説明の機会を設け、理解を得ながら進めていくことが重要であると考えます。